

郷音

No. 90

〒590-0959

日本キリスト教団 堺川尻教会
堺市堺区大町西三丁目一十三
☎〇七二・二三三・三三三三

「ただ、神の国を求めなさい。
：小さな群れよ、恐れるな。あなた
がたの父は喜んで神の国をくだ
さる。」(ルカ二二章二一、三二節)

右の聖句は、主イエスが、今私
たち教会に語っておられる言葉と
して受け止めるべきものです。「た
だ、神の国を求めなさい。」「神の
国」とは神がよき王として統治さ
れることです。教会よ、この神に
よるよき統治を求めなさい、「小さ
な群れよ、恐れるな。あなたがた
の父は喜んで神の国をくださる」
と主は今私たちに言われます。

新型コロナウイルス感染症のため
に、私たちは当たり前前の日常生
活を失ってしまいました。仕事や
学業が今まで通りにできなくなり
ました。教会も同様です。四月五
月は会堂での主日礼拝を休止せざ
るを得なくなりました。こんな日
が来ることを誰が予想したでしょ
うか。六月から礼拝と祈禱会、教

会学校を再開することができま
したが、それ以外の集会はお休みで
す。恒例の夏期学校も秋のバザー
も今年は中止です。教会はこの感
染症のためにこれまでの活動がで
きなくなってしまうました。私た
ちはこの事態をどのように受け止
めたらよいのでしょうか。

小さな群れよ、恐れるな

ルカによる福音書二二章二一〜三四節



主イエスは冒頭の聖句の少し前

で、私たちに、鳥と野の花を考え
てみなさいと言われます。「鳥のこ
とを考えてみなさい。種も蒔かず、
刈り入れもせず、納屋も倉も持た
ない。だが、神は鳥を養つてくだ
さる。あなたがたは、鳥よりもど
れほど価値があることか。」「野原
の花がどのように育つかを考えて
みなさい。働きもせず紡ぎもしな
い。しかし、言っておく。栄華を
極めたソロモンでさえ、この花の

一つほどにも着飾ってはいなかつ
た。今日は野にあつて、明日は炉
に投げ込まれる草でさえ、神はこ
のように装ってくださる。まして、
あなたがたにはなおさらのことだ
ある。信仰の薄い者たちよ。」主は、
鳥と野の花を例にあげて、神が私
たちに日々命を与え、日々必要な
ものを与えて生かしてくださつて
いるのであることを教えてください
ます。そしてそのことをすぐ
に見失ってしまう私たちを「信仰

の薄い者」と言われるのです。

先ほど「新型コロナウイルス感
染症のために、私たちは当たり前前
の日常生活を失ってしまった」と
言いました。しかし実はあのコロ
ナ以前の日常は、決して当たり前
のものなどではなかったのです。
愛の神が、毎日毎日を新しく、私
たちにくださっていたのです。私
たちは信仰が薄いために、そのこ
とを見失っていました。愛の神が、
日毎に私たちに新しく命を与えて

くださり、日毎に新しく必要なも
のを与えて、私たちを生かしてく
ださっていたのです。

その神が、今、私たちのこれま
での日常を中断されました。私た
ちのこれまでの日常を止められた
のは神なのです。なぜでしょうか。
それは、きっと神が、私たちに何
か全く新しいことをしようとして
おられるからなのです。感染症に
よって私たち人間の様々な計画は
頓挫しましたが、ここからきっと、
神の思いもよらない計画が始まり
ます。愛の神が新しい御業を始め
ようとしておられるのです。私た
ちはこのことを信じるのです。

私たちキリスト教会は、このこ
とを信じる群れとして、ただ元通
りの教会生活を取り戻すことだけ
に心を奪われないようにしたいの
です。私たちのこれまでの教会生
活を中断させられたのは神です。
それはきつと神が、私たちを、新
しい神の恵みの旅へと導こうとし
てくださっているからなのです。
「小さな群れよ、恐れるな。あな
たがたの父は喜んで神の国をくだ
さる」との主の御声が響きます。